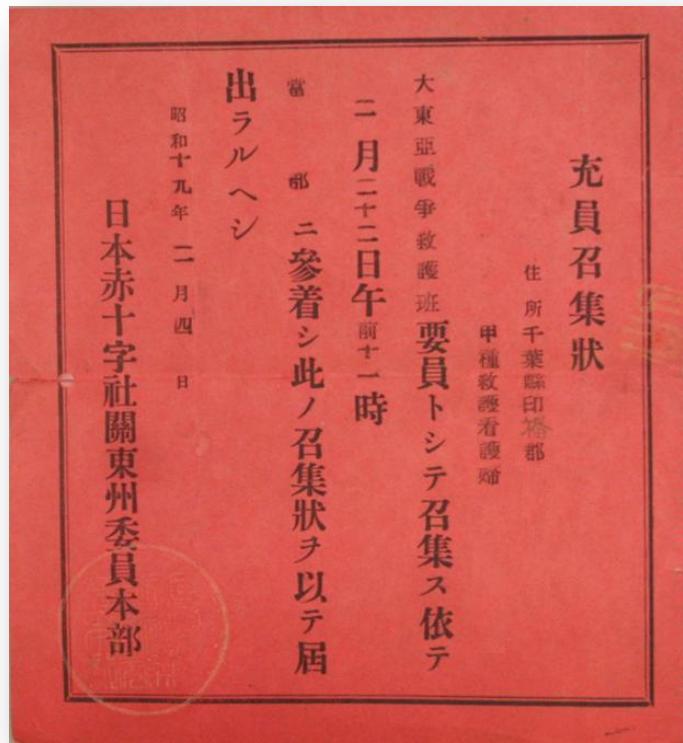




展示紹介

Vol. 2

2010.8.15



召集状



救護看護婦立像

戦時の救護活動～第二次世界大戦～

・ 召集状

1931年(昭和6年)の満州事変から第二次世界大戦終結までの15年間は、日本が戦争に明け暮れた時代でした。

この期間に活動した日本赤十字社救護員は、延べ約3万6,000人、看護した傷病者は膨大な数にのぼります。

救護員は、本社から救護班編成の通知を受けた支部から召集状を受け取り、国内をはじめ中国大陸、東南アジア、南太平洋諸島などの軍病院、病院船、野戦病院などに派遣されました。また本土空襲でも、被災地の巡回診療や臨時救護所を設けて救護活動を展開しました。

・ 殉職救護員慰靈碑と救護看護婦立像

1977年(昭和52年)に、日本赤十字社創立百周年事業の一環として本社前庭に建立されました。

慰靈碑の中には、日清戦争から第二次世界大戦の戦時救護による殉職救護員1,317人、関東大震災などの災害救護による殉職救護員9人の計1,326人の名簿と各人の功績を収録した「遺芳録」が安置されています。

殉職された方々の尊い犠牲を忘れず、その御靈を慰めるため、例年8月に献花を行っています。



今年は8月13日(金)8:30-14:00に慰靈碑前に献花台を設置します。一般の方もご参加いただけます。